

『特色ある生涯スポーツを園から 坂井市がつなぐ フライングディスクの輪』

事業名 「園におけるフライングディスク（ドッチビー）教室」
担当者 指導主事 栃倉
担当課 学校教育課
連絡先 0776-50-3161

日 時 令和8年3月12日(木) 10時～11時
場 所 坂井市立安田幼保園
坂井市丸岡町下安田 19-9
対 象 安田幼保園 5歳児（約23名）

事業内容 ①目的

坂井市では、幼児期から高齢者まで、誰もが気軽に楽しめる特色ある生涯スポーツの普及を目的に「フライングディスク競技」を推進している。

フライングディスクの中でも、特にドッチビーは「当たっても痛くない」柔らかな素材でできており、とても安全性が高く、年齢や性別を問わず、体力差に左右されにくい点が大きな特徴。また、投げ方の工夫だけで上達を実感しやすいことから、スポーツを苦手と感じている子どもでも前向きに取り組むことができる。

- ・手首のひねりや指先のコントロールなど、幼児期に育てたい運動機能を自然に使うスポーツであること。
- ・成功体験を得やすく、自己肯定感の育成に適していること。
- ・仲間と協力しながら、喜びや悔しさを味わうことで、協同性・仲間意識が育まれること。

フライングディスクを通じて、坂井市は「生涯を通じた運動習慣づくり」の基盤を幼児期から培うことを目指している。

②経緯

坂井市ではこれまでも、地域住民や高齢者を対象としたフライングディスク体験会を継続的に開催してきた。市内の体育館や地域イベント、スポーツ推進委員会による講習会など、幅広い世代を対象とした普及活動が複数回行われてきた。

その取り組みの中で、「年齢を問わず楽しめる」「怪我の心配が少ない」「運動が苦手と感じる子でも参加しやすい」という評価が多く寄せられたことから、2024年より保育施設に向けた「フライングディスク（ドッジビー）教室」が新たにスタート。

これにより、坂井市は幼児期からの生涯スポーツ推進体制をより強化した形となる。

園におけるフライングディスク（ドッジビー）教室は、2024年11月の公私立園長会にて教育委員会より発信し、呼びかける。初の実施は、2025年1月27日（月）坂井市立鳴鹿幼保園を皮切りに春江北幼保園、雄島こども園、春江幼保園、春江中保育園、春江東幼保園、加戸幼保園、まごころ認定こども園、など複数園実施している。

③内容

教室では、園児の発達段階に合わせ、主に以下の活動を行う。

1. 触れる・投げる練習

ディスクを持ち、手首を使って回転を与える感覚を体験する。

まっすぐ投げる、近くの的をねらう など成功体験を得やすい内容。

2. 5人ほどのチームに分かれてリレー形式のゲームを行う。

ディスクを的であるバスケット型のゴールに向け、投げる。外れたら、自分で取りに行き、次の友達にリレーし、渡す。ゴールに入ったら、ガッツポーズをし、喜びをチームで味わう。

順番に投げ、仲間を応援しながらチームに与えられたディスクをいかに早く全部をゴールに入れることが出来るかを競う。

坂井市教育委員会中田部長を指導者とし、生涯学習スポーツ課も指導に当たる。専門的な知識と経験をもつ指導員が、園児の安全に配慮しながら楽しく活動をリードする。

教室を通じ、以下のような効果が期待されている。

- ・手首・指先の運動による巧緻性の向上。
- ・成功体験を通じた自己肯定感の育成。
- ・仲間と協力する楽しさを知り、協同性や仲間意識が育まれる。

スポーツへの興味関心、前向きな姿勢を幼児期から育み、生涯スポーツへの入り口となることが考えられる。

フライングディスク（ドッチビー）を通して「楽しさを共有し、他者や仲間を応援できる活動」である点を重視している。

④今後の展望

坂井市では、2024年度の導入を皮切りに、以下の展望を描いている。

- ・市内の園での実施拡大。
- ・小学校への接続期における運動プログラムとしての活用。
- ・地域イベントや世代間交流でのフライングディスク活用。
- ・高齢者との合同イベントなど、世代を超えたスポーツ文化の形成。

幼児期から高齢者まで「同じスポーツを共有できる市」を目指し、生涯スポーツの普及と地域コミュニティの活性化につなげていく方針である。